

那須平成の森だより



〜自分だけの自然に出会う〜

第15回 「インタープリターのエピソード
〜森の豊かさを、さまざまな視点で捉える〜」

僕は森に出かける時、周りをキヨロキヨロと見渡しながら歩きます。木のとっぺんから足もとに至るまで・・・はたから見ると少し怪しい人に見えるかもしれませんが。

那須平成の森はツキノワグマが生息し、たくさん野鳥が子育てをする、命あふれる森です。ただ僕は、これらの生き物に比べるとあまり目立たない、気付かずに通り過ぎてしまうようなものに深い関心があるのです。キヨロキヨロ歩きをして、見逃さないようにしているのです。



枯れ木からあふれるように生えるナラタケ。木を分解してくれています。

例えばその代表が、キノコです。那須平成の森には200種



冬虫夏草(とうちゅうかそう)の一つ、サナギタケ。土の中にあつた蛾のサナギから生えていました。

類以上のキノコの仲間が確認されています。実はキノコは「木の子ども」の名の通り、木と深い関係にあります。枯れ木や落ち葉を分解してくれるものもあれば、木と栄養をやり取りして成長を手助けしているものもあります。森を作り、調整する役割を持つキノコが豊富に見られるという事は、森そのものの躍動、そして力強さを表しています。

このような森では、さまざまな生き物同士の関わりが見られ中にはユニークな関係に発展しているものもあります。例えば「冬虫夏草」という、森に生息する虫を栄養源にして生えるキノコや、逆にキノコを栄養源に

する植物(腐生植物)も現れます。僕は、そのような不思議なつながりを見つけた時、何とも言えない感動を覚えます。

一目立たないような、森の「裏方」のような存在にこそ、森の多様性を育む秘密があります。そのおかげで、ツキノワグマや野鳥などが生息しているのです。ただ、これらの生き物の活動は少し複雑で、分かりにくいものも多いです。そんな時こそ、それらの意味や役割を分かりやすく通訳する、「インタープリター」の出番だと思っています。

那須平成の森フィールドセンター
インタープリター 丸子哲平



町内のコンビニエンスストアでの出来事です。小学校高学年くらいの男の子が、二人で買い物をしていました。そのうちの一人が、レジで精算を済ませたあと、もらったおつりを募金箱に入れました。▼もう一人の男の子は、「募金なんてするんだね」と少し驚いた様子です。すると募金した男の子は、照れる

でもなく、自慢するでもなく、「いつもしているよ」と言いました。▼二人の会話はそれで終わってしまいました。後ろで聞いていた私は、親がそのようにしているのか、学校で習ったのか、どのような思いで募金しているのか、と聞いてみたくなりました。何よりも、二人の男の子に清々しさを感じて、尊敬するような気持ちになりました。

言の対象区域となる中、2度目の夏休みが終わりました。学校が始まって、暑さが残る中でマスクをして過ごす子どもたちを思うと、胸が痛みます。▼緊急事態宣言下では、不要不急の外出自粛など、大人も子どもも我慢が多く、思い通りにならないうことが増えます。それでも今は、コンビニエンスストアで出会った男の子のように、自分ができることを、いつもどおりやりたいと強く思います。

こんにちは **赤ちゃん**

令和2年9月2日生

平山 ^{かける} 翔くん(高久)

父 直道さん
母 由佳梨さん

翔くんは…
大好きなお兄ちゃんにいつも遊んでもらって、にこにこ笑顔の翔くんです。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(8月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

●世帯数	10,527世帯 (+9)	出生	8人 (+ 7)
●人口	24,673人 (-24)	死亡	34人 (+ 9)
	男 12,280人 (-11)	転入	51人 (-21)
	女 12,393人 (-13)	転出	48人 (+15)
		その他	1人